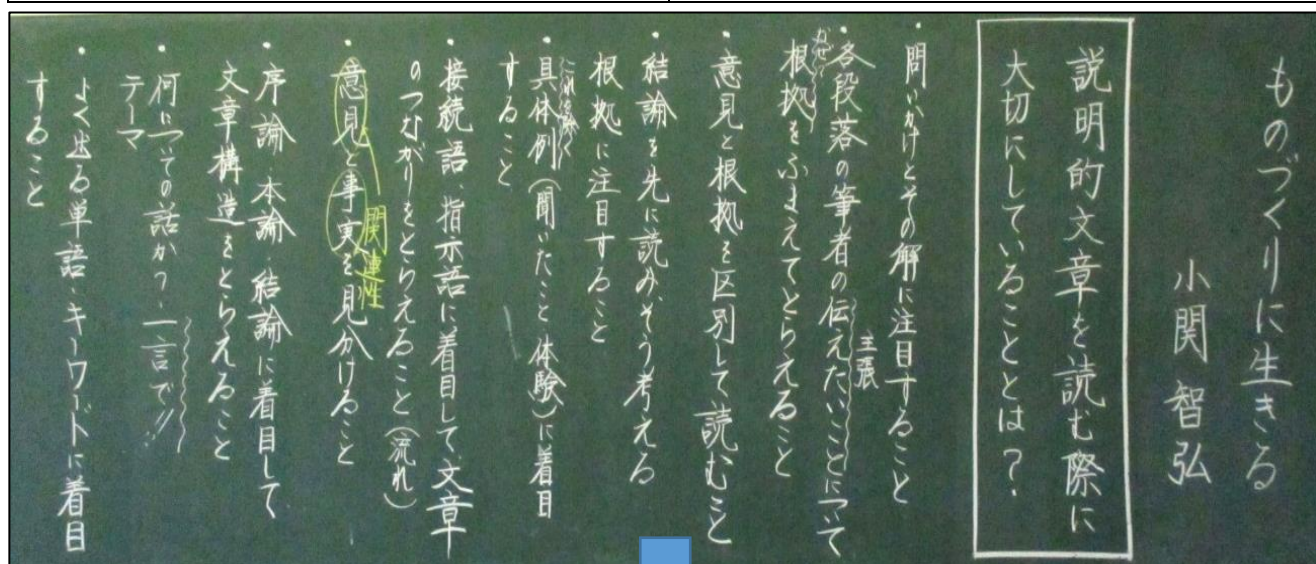
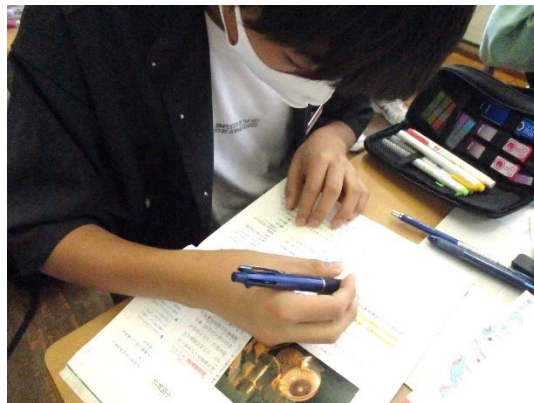


1 授業の実際

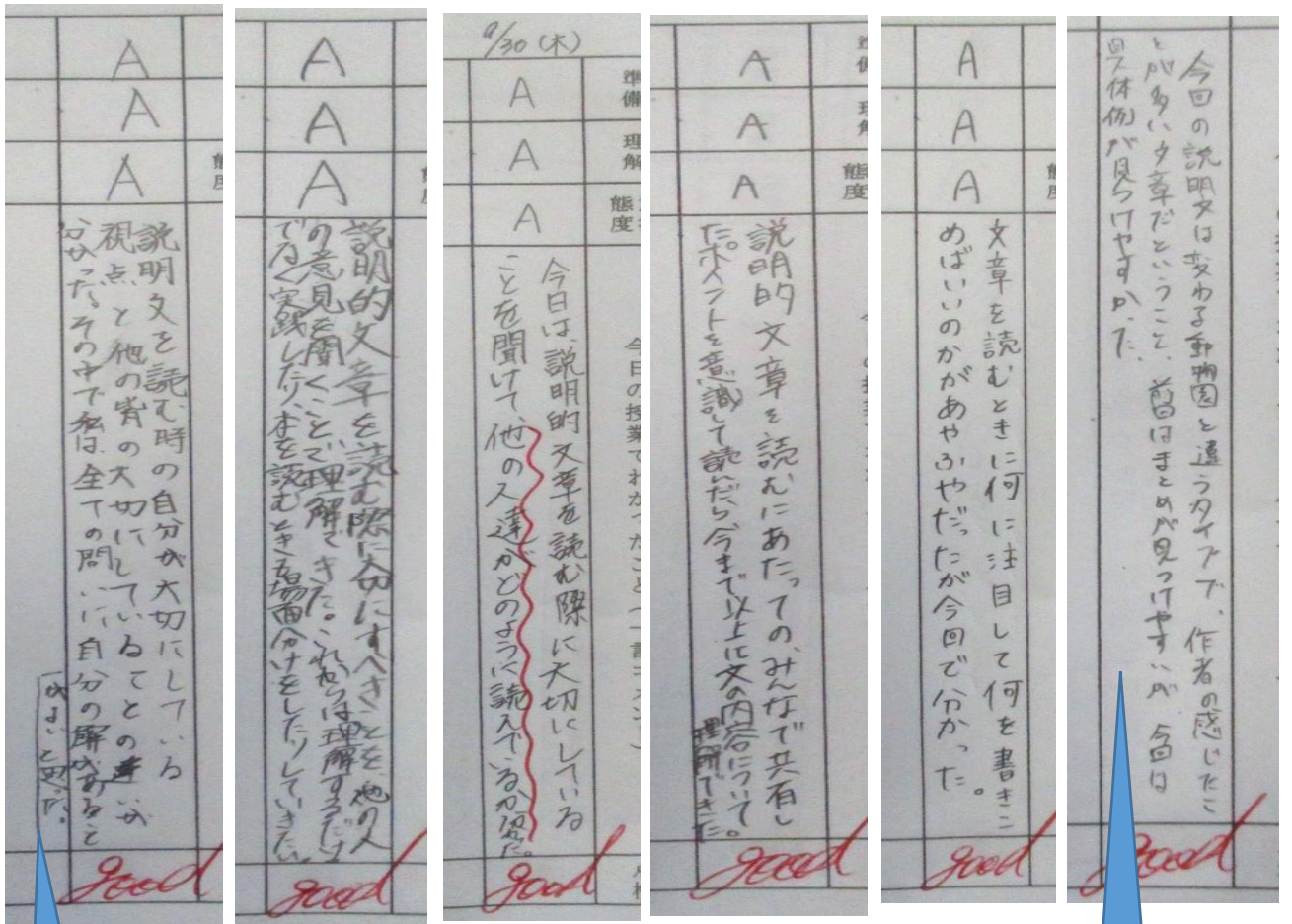
主な学習活動①～②

教師の支援・指導	生徒の反応
<p>① 江戸切り子を提示する。</p> <p>② プロGRESSカードを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> この単元で身に付けてほしいことを確認する。 <p>③ 説明的文章を読む際に大切なこと（視点）を発問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個で検討させる。 ペアで検討させる。 <p>④ ペアで共有させたのちに全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒から挙げられた考えを板書する。 <p>⑤ 生徒から挙げられた視点を踏まえて「ものづくりに生きる」を書き込みながら読ませる。</p> <p>⑥ 書き込みながら、初読の感想、疑問と解、筆者の主張をプリントにまとめさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> すてきなカット技術だな。 このような工芸品を作っている職人はどのような人だろうか。 <ul style="list-style-type: none"> 意味段落ごとに文章構造をとらえること。 意見と事実を区別して読むことやその関連性についても着目すること。 序論、本論、結論に着目して読む。



「疑問（問い）とその解を考えながら読んでいく」という考えが挙がる。

「ものづくりに生きる①」後のプログレスカードの生徒の記述から




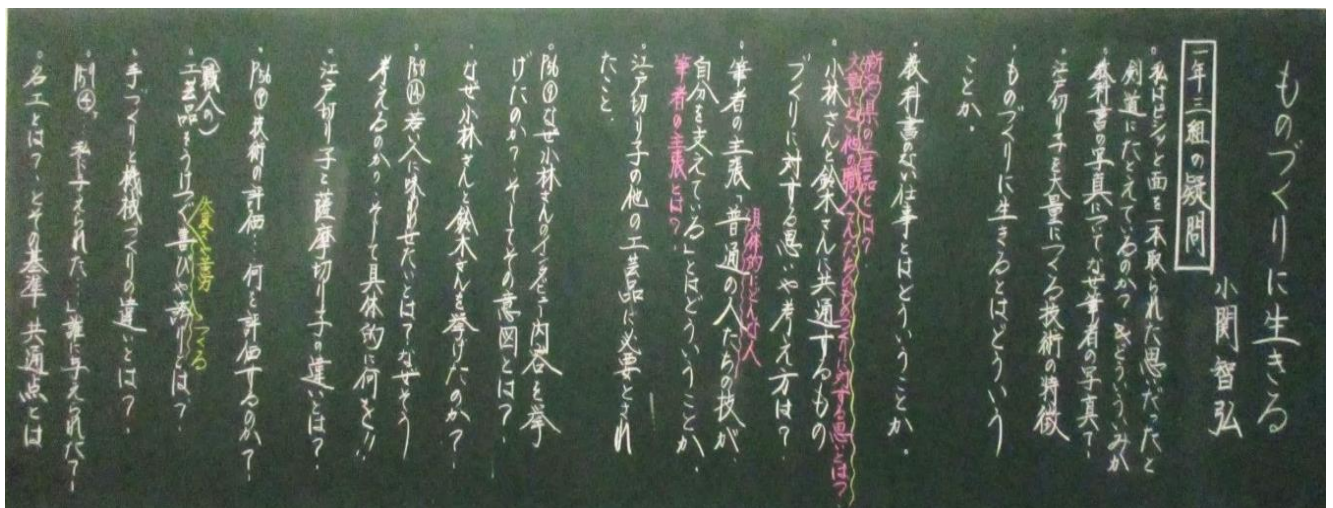
問いとその解を追究しながら文章を読むことの大切さに気付いている。

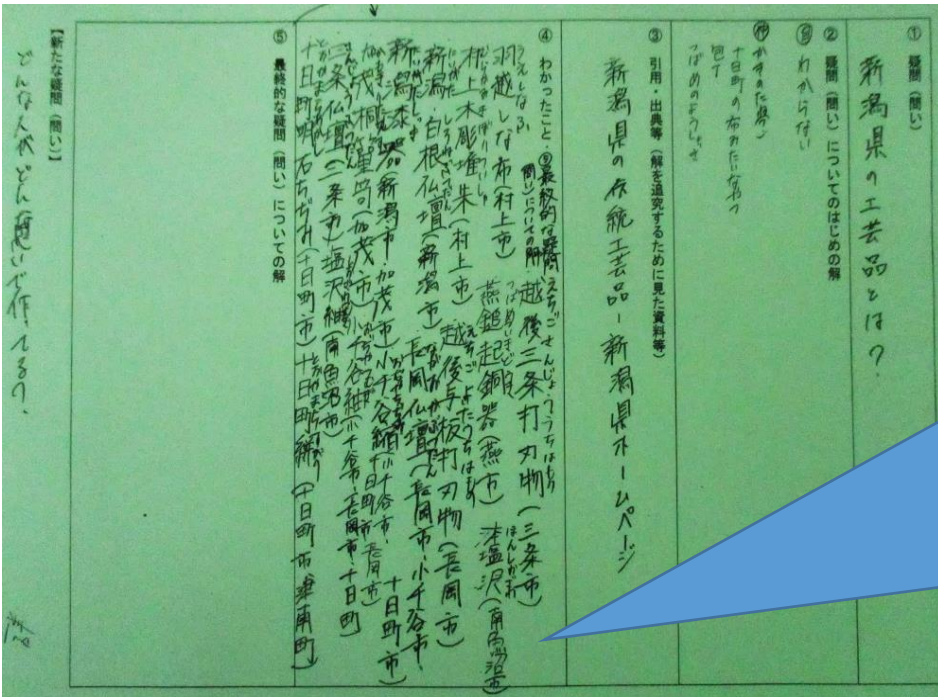
説明的文章を読む際に大切にしていること（視点）について他者の考えに触れることで自身の視点が広がっていることを実感している。

これまで学習した単元やそこで学んだことと関連付けてとらえている。

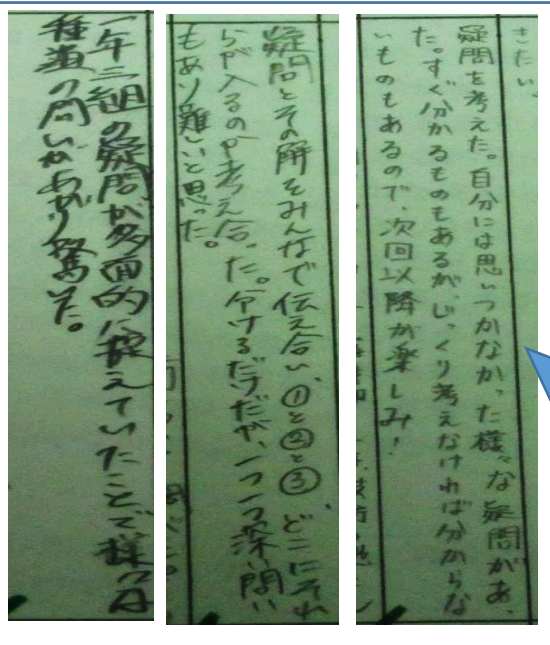
主な学習活動③～④ <手だてア>

教師の支援・指導	生徒の反応
<p>① 疑問を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒から疑問を挙げさせて黒板にまとめる。 <p>② 疑問を分類させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒板に挙げられた疑問を分類させる。 全体で共有しながら疑問①、疑問②、疑問③に分類する。 <p>③ 疑問①を学習グループで分担してその解をまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 疑問を分類した後、初めにどの疑問から調べたらよいかと問う。 これだけの数を一人で全て調べるのかと問う。 疑問①を分担した後、まずは、今の疑問①の解をまとめさせる。 <p>④ 疑問①の解を調査させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットや書籍、教科書を活用して調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸切り子をつくる技術とはどのような技術か。 新潟県内にはどのような伝統工芸品があるのか。 普通の人たちの技が、自分を支えているとはどういうことか。 ものづくりに生きるとはどういうことか。 「現代の名工」に共通して言えるものは何か。 まずは隣同士で、その後、学習グループで分類する。  <ul style="list-style-type: none"> 疑問①の解は、調査するとすぐに解が見つかるから、先に疑問①の解を調査しよう。 分担して疑問①の解をまとめよう。 <ul style="list-style-type: none"> インターネットなどで疑問①の解を調査してわかったことをワークシートにまとめる。





最初に疑問①についての自分なりの解をまとめ、その後調査してわかったことを記述して、最終的に疑問①の解について自分なりの考えをまとめている。




「ものづくりに生きる②」後のプログレスカードの生徒の記述から

【生徒の記述から考察できること】

- 他者の疑問を共有することは疑問にかかわる見方や考え方を広げることにつながる。
- 疑問の解を調査させることは、生徒の読みへの目的意識を醸成させることにつながる。

主な学習活動⑤～⑭ <手だてア><手だてイ>

教師の支援・指導	生徒の反応
<p>① 同じ疑問①のグループで疑問の解を交流させる。</p> <p>② 学習グループで疑問の解を交流させる。</p> <p>③ 疑問②(問い)の中から、筆者の主張を深くよむための疑問を厳選させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> この問いの中で、追究することによって筆者の主張を深くとらえることにつながる問いを一つだけ選ぶとするならばどれですかと問う。 <p>④ 「ものづくりに生きるとはどういうことか」について現在の考えをまとめさせる。</p> <p>⑤ 問いを学習グループで分担してその解を追究する活動を組織する。</p> <p>⑥ 問いの解を練り上げる活動を組織する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 可視化シートの「ものづくりに生きるとはどういうことか」に今回の交流で、わかったこと等を加筆させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ疑問①のグループで疑問の解を交流する。 学習グループで疑問の解を交流する。 疑問②(問い)の中から、筆者の主張を深くよむための疑問を厳選する。 問いを厳選する。 「ものづくりに生きるとはどういうことか」 自分の考えをまとめるものの、具体的に記述することができない。そこで、そのほかの問いについて、初めに追究した後、再度「ものづくりに生きるとはどういうことか」についての解をまとめたい。 学習グループで分担し、問いの解を追究する。 



可視化シートとは、自身が立てた問いとその解、解を追究するために調べた資料等を俯瞰できるシート

2 成果と課題

○ 成果Ⅰ <手だてア> プログレスカードの毎授業後の生徒の感想とワークシートから

A	A	A	A	A	A	A	準備
A	A	A	A	A	A	A	理解
A	A	A	A	A	A	A	意欲 態度
<p>今日の授業でわかったこと</p> <p>今日は疑問を解きました。教科書の範囲で考えたので、より深よみできてよかった」「同じ問いでも考えの異なる人と話し合えとても勉強になった」という記述から疑問や問いの解を追究し、交流することで考えの広がりを生徒は実感していることがわかる。</p>							

「今日は疑問を解きました。教科書の範囲で考えたので、より深よみできてよかった」「同じ問いでも考えの異なる人と話し合えとても勉強になった」という記述から疑問や問いの解を追究し、交流することで考えの広がりを生徒は実感していることがわかる。

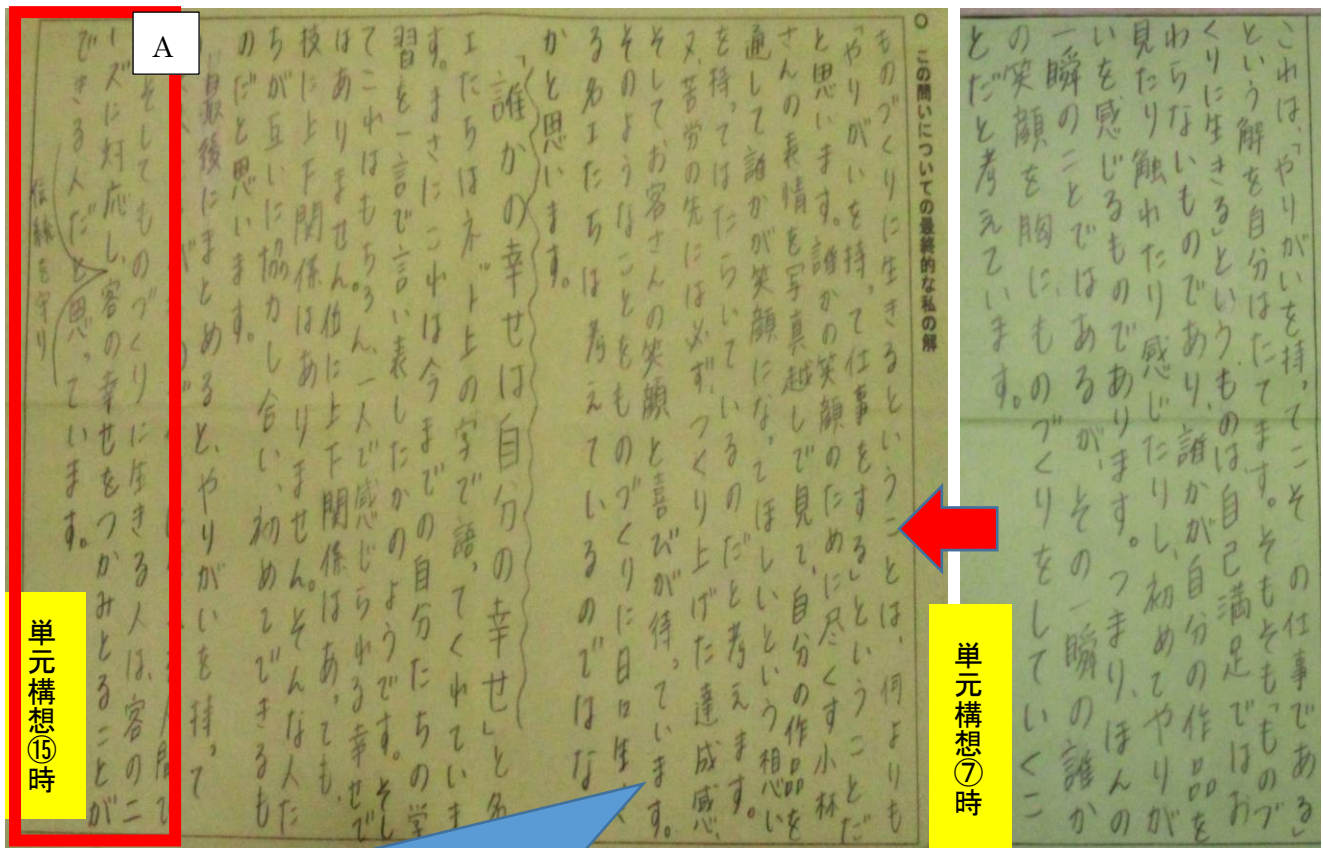
<p>⑤ 最終的な疑問（問い）についての解</p> <p>剣道という緊張感のあるものにたとえ、自分が考えているカテゴリーも、小林さんの方が深まじ理解をして驚いたため、このように表現した。剣道という種目に関心して、剣道の礼儀を重んじており、かつ、小林さんの方が礼儀が分かっていることも表した。</p>	<p>④ わかったこと</p> <p>↓このように、シンブルな技術と、技術の蓄積があったから江戸切り手は今もなお受けつかわれているという点も、技術面、剣道は少しも気をゆるめず、状況下、相手に負けず、そのような状況下、自分が油断をしない、ということも表した。剣道について</p>	<p>③ 引用・出典等（解を追究するために見た資料等）</p> <p>教科書 edokoro.or.jp kendo.or.jp ja.wikipedia.org kokuyo.co.jp</p>	<p>② 疑問（問い）についてののはじめの解</p> <p>剣道という緊張感のあるものにたとえ、小林さんという方も小林さんに言われた小林さん、カッグラスのことを奥深く手と理解している、小林さんの方が、剣道について、剣道という意味、日頃から自分もちゃんと理解している、という点も表した。</p>
---	--	--	--

初めの問いの解と最後の問いの解とを比較。初めは、剣道という緊張感のあるものに喩えて奥深さを表現していたが、グループで交流する中で、初めの解釈にさらに、文章中の描写や「剣道の礼儀」と関連付けて自分なりの解釈を見いだしている。

○ 成果Ⅱ <手だてア><手だてイ>

学習課題「ものづくりに生きるとはどういうことか」の生徒A記述の変容

プログレスコアの毎授業後の生徒の感想とワークシートから



単元構想⑦時は、「やりがいのある仕事」「誰かの笑顔を胸にものづくりをしていくこと」と考えていた。その後、当該生徒は、他の職人のものづくりにかける思いを調べる中で、「職人は、常にお客の視点からお客にとってより良いものをつくるのが大切である」という考えをもつ。さらに、追究した問いの解を全体共有する中で、同じように、消費者（お客）の視点からものづくりを考える」という仲間の考えを聞く中で当該生徒は大きく頷いていた。その後、単元構想⑮時では、追究活動でわかった具体的な内容を踏まえながら、「ものづくりに生きる人は、お客のニーズに対応し、伝統を守りお客の幸せをつかみとることができる人」としている（枠囲みA）。したがって、この生徒は、問いを立てて、その解を追究する中で、わかったことや既有知識を関連付けながら、ものづくりに生きる職人の思いや筆者の主張を捉えていることがわかる。

○ 成果Ⅲ 教科の本質や本質を踏まえた生徒の姿について

【国語科における教科の本質】

問いを立てて、その解を追究する中で自分の考えを広げたり、深めたりする資質・能力を身に付けること

【国語科における教科の本質を踏まえた生徒の姿】

問いを立てて、その解を追究する中で、複数の情報の中から適切な情報を得たり、それらと自分の既有知識や体験と関連付けたりしながら、自分の考えを広げたり、深めたりすることのよさを実感している

主な学習活動⑩ 「本単元を終えての感想」

授業で「疑問を思いつく限り書き出してみんなが共有する活動」を行いました。教科書の文章やインターネットで調べたことを踏まえながら、疑問や問いの解を考えました。そのおかげで、自分もややもやしていたものはもちろんのこと、自分の疑問や仲間の疑問の解が自分なりにわかり、自分の知識になっていました。そのような経験を通して今回も前回の「変わる動物園博士」同様、「伝統文化博士」になりました。また、前回の「変わる動物園」の時のように自分の考えと仲間の考え、インターネットで調べた情報を踏まえて発表できるようにしました。

今回は、疑問についてシートに自分の考えをまとめたり、調べたことをまとめたりして、疑問や問いの解がわかることの楽しさや達成感をもちました。今回のようなやり方を今後の授業でも行っていきたいと思えます。

手だてアの問いの解を追究していく活動を通して、複数の情報を調べることで、それらと自分の既有知識や体験と関連付けたりしながら、自分の考えをより広げていると実感している（傍線部B）。さらに、仲間の疑問の解を交流することを通して、自分の考えが深まっていると実感し、「博士」という比喻を使いながら自身の考えの高まりを実感、納得している（傍線部C）。この他、仲間との交流の際には、手だてイの可視化シートにまとめられた、問いの解を追究する中で収集した情報の共有を通して、わかったことや自分の考えをまとめるシートが一層、自身の考えの深まりにつながっている。そして、このような学びの中で学びの楽しさを実感している（傍線部D）。

以上、文章中に書かれている内容や主張を生徒の既有知識や体験と関連付けながら読み

取らせることを通して、相手の主張をより身近に実感させることが重要となる。さらに、自分の考えを表現したり、他者とかかわり合ったりする活動を通して、自分の考えの広がりや深まりのよさを実感するのである。この姿こそ、国語科における教科の本質を踏まえた生徒の姿である。

○ 課題

<手だてア>

本単元では、生徒から挙げられた疑問から疑問①「筆者の主張をとらえるために必要であると考えられる疑問であり、調査活動を行ったり、文章を読んだりすればすぐに解を見いだすことができる疑問」、疑問②「筆者の主張をとらえるために必要であると考えられる疑問であり、調査活動を行ったり、文章を読んだり、熟考したりする中で解を見いだすことができる疑問」、疑問③「文章を読み、熟考しても解を見いだすことができない疑問や筆者の主張をとらえるために必要ではないと考えられる疑問」に分類させた。そして、疑問②を「問い」とした。実際に、分類する中で、「問い」の中でも解釈の幅があるものとならないものに分類することができることに気付いた生徒が複数いた。したがって、「問い」の中において、さらに分類できることがわかった。今後、この手だてを講じる際に、読みを深めるための有効な「問い」の分類についても工夫していきたい。

<手だてイ>

本単元では、模造紙2分の1サイズに、B5サイズの紙を最大16枚貼ることができる「可視化シート」を作成しながら、問いの解につながる情報等を俯瞰しながら追究した。一方で、生徒が調べた情報が膨大にあり、整理することに時間を費やした。次年度、GIGAスクール構想にかかわり、今後は、タブレット上で同じような活動ができるように工夫をしたい。しかし、可視化シートは全体を俯瞰できるものの、タブレットでは、限られた画面の中で俯瞰することに限界があるため、双方を組み合わせながら工夫していきたい。